PRO MUSICA NIPPONIA

日本音楽集団

第123回◈定期演奏会

芸術文化振興基金助成事業

1992年5月11日(月)午後7時開演
ABC会館ホール

芸術文化振興基金

主催／日本音楽集団 TEL03-3378-4741
〒151東京都渋谷区笹塚3-17-1 滝沢ビル302

プログラム

一．Duo ’87　　三枝成彰 作曲

〔三味線〕太田 幸子　〔 箏 〕内藤 洋子

「初・中級者でも演奏できる三絃と箏の曲を」との依頼で作曲したわりには、技術的に難易度の高いものになっているのですが、音楽的にはそれほど複雑な構成にはなっておりません。

譜面上には、ある程度の演奏方法や強弱などの指示がしてありますが、これは譜面にも記してあることですが、とくに指定のない箇所は、奏者の工夫で随意に演奏してもらうようになっております。そういう意味では、初級者の方から上級者の方々まで、それぞれに応じた音楽が創造できるのではないかと思っております。

私は基本的には、譜面に書かれた音が合っていれば、テンポや強弱は変えても構わないと思っています。このようなものは、時代により解釈が変わってくるものですし、それぞれの作曲家によっても感じ方が変ってくることもありますので、私の譜面上での指示は参考程度に考え、演奏家の意思にまかせたいと思うのです。（三枝成彰）

1987年度新典音楽協会委嘱作品。

二．鳥と砂と海と〈改訂初演〉　　長沢勝俊 作曲

〔 笛 〕竹井　誠
〔尺　八〕Ⅰ＝藤崎 重康・水川 寿也　Ⅱ＝米澤　浩・添川 浩史
〔胡　弓〕畦地 慶司　〔三味線〕工藤 哲子　〔琵　琶〕田原 順子
〔 箏 〕Ⅰ＝花房はるえ・安武由香里　Ⅱ＝熊沢栄利子・島崎 春美
Ⅲ＝山田 明美・佐藤 里美
〔十七絃〕宮越 圭子・大畠菜穂子　〔打楽器〕前田 文男・臼杵美智代
〔指　揮〕稲田　康

日本には古くから「鳴り砂」または「鳴き砂」と呼ばれる、砂が琴を奏でるような音を出すという現象があります。現在でも「琴ヶ浜」「琴引浜」「鳴浜」等という地名で残っており、その個所は全国で20ヶ所にものぼるといわれています。

かつて、たえなる音を奏でたこれらの浜辺は、海と海岸の汚染が進むにつれ、その歌声は年ごとに小さく、細くなってきています。

冬の荒れ狂う怒濤に洗い浄められた砂は、鳥のあゆみにも敏感に反応し、ささやかなやさしい自然の歌をうたい続けてきました。

しかし現在の日本は自然の摂理に反する事象が氾濫しています。「鳴き砂」の音を絶やすことは、次に人間が泣くことになるのではないでしょうか。

人間と自然の調和の中にこそ、明日への平和があることをねがい作曲しました。

「鳥と砂と」「鳥と海と」の２章より出来ています。

1983年10月５日、日本音楽集団第79回総合定期演奏会にて初演。この度一部に手を加え、改訂初演とさせていただきます。（長沢勝俊）

三．浅黄の中から　　六世藤舎呂船 作曲

〔三味線〕杉浦 弘和（客演）
〔打楽器〕尾崎 太一・高橋 明邦・黒坂　昇
〔打楽器・マリンバ〕臼杵美智代

1983年12月「杉浦弘和の会」で委嘱・初演されました。三味線一丁と打楽器四部による組曲です。

古典芸能の場面転換の舞台技術として、〝浅黄幕のフリ落し〟というものがありますが、浅黄幕の中から一変して現われる異った場面――５つの部分から成る組曲の題名としてみました。そして曲のイメージは歌舞伎の世界です。

Ⅰは幕明キ（置）の部分で、スタートの期待感をこめた軽快なリズムから始まります。

Ⅱはティンパニィの緩連打によって始まり、これは下座音楽の「雪音」に擬してあり、雪中に男女が道行をする場面です。

Ⅲは滑稽、おかしみの部分で、リズムの面白さを特に強調してあり、三味線も打楽器群

の一部として扱われます。中に手拍子の部分等があり、お客様にも加わっていただければ楽しいことと思います。
Ⅳはクドキの部分で、入相(夕暮)の鐘、散る桜花の下に、もの思うとでもいった気分が出ればと思います。
Ⅴは高揚した完結部で、各パートのかけ合いとなっております。一部分カデンツァを入れることがあり、今日は古典囃子的にという指定を付けました。
　全体として三味線は旋律の面白さと共に、打楽器的要素を強調して、各種打楽器群と競演してもらいます。
　古典の演奏と共に、現代曲の三味線奏者として多くの作品を手がけてこられた杉浦弘和氏の再演によってどのような生命が吹き込まれるか、大きな期待をもって〝浅黄のそとから〟拝聴します。
(藤舎呂船)

四. 巨　火(ほて)　　三木　稔 作曲

〔　笛　〕Ⅰ＝竹井　　誠　Ⅱ＝西原 貴子
〔尺　八〕Ⅰ＝坂田 誠山・水川 寿也　Ⅱ＝藤崎 重康・石田 忠史
　　Ⅲ＝米澤　　浩・添川 浩史
〔胡　弓〕畦地 慶司　　〔三味線〕Ⅰ＝野口美恵子　Ⅱ＝坂井 敏子
〔琵　琶〕Ⅰ＝半田 淳子　Ⅱ＝山田まゆ美
〔　箏　〕花房はるえ・外山　　香　　〔二十絃箏〕吉村 七重・山田 明美
〔十七絃〕宮越 圭子・大畠菜穂子
〔打楽器〕Ⅰ＝西川 啓光　Ⅱ＝望月太喜之丞　Ⅲ＝黒坂　　昇
〔指揮・打楽器Ⅳ〕稲田　　康

〝巨火〟。この名は、巨大な焔といった意味です。作者の企画した〈かぐら1976〉のとりの曲として、日本音楽集団の最も大きな編成で書かれました。16人の管絃奏者を4人の打楽器奏者が囲んで演ずる、30分近い曲で、おおよそ3つの部分に分けられます。
　第一の部分は〝祀り〟すなわちリチュアルな、厳粛な雰囲気を持っています。第二の部分は〝遊び〟というか、スケルツァンドな部分。最後はそれが徹底し〝祭〟、フェスティバルですが、秩父屋台囃子が、笛、打楽器に援用されています。通常な形での指揮者でなく、上手手前の打楽器奏者が、音頭取りを兼ねるよう作曲されており、二十絃箏もしくは三味線あるいは打楽器が、上演時の状況に応じてソロ的に大活躍するようヴァージョンを分けてあります。
(三木稔)
　今回、打楽器のカデンツァ部分を、稲田康が作り、新しい巨火を楽しんで頂こうと思います。

杉浦弘和氏　プロフィール

1956年　東京芸術大学邦楽科卒。
　　同校副手を経て長唄東音会の結成に参加。
1964年　日本音楽集団の結成に参加。
　　以後、日本音楽集団の中心的存在として、多数の海外公演・国内公演に出演
1974年　「杉浦弘和の会」第一回にて、芸術祭優秀賞を受賞。以後五回に及ぶリサイタルを開催。
1975年、77年　カーネギーホールに出演
1981年　アメリカUCLA大学に、講師として招かれる。「伝統芸能五人の会」結成。
1986年　ニューヨーク、ワシントンに於て「長唄東音会」のコンサートを開く。
現　在　長唄東音会理事。東京音楽大学講師。朝日カルチャーセンター講師。日本音楽集団団友。

日本音楽集団今後の主な予定

5月21日(木)	名フィル第174回定期で「急の曲」(三木稔作曲）を共演、指揮＝M.アッツモン	名古屋市民会館
6月4日(木)	第18回民音現代作曲音楽祭に出演（篠原真作曲『邦楽器のオーケストラと混声合唱のための――夢路』）	東京文化会館
6月13日(土)	〃	大阪国際交流センター
6月30日(火)	第10回「現代日本音楽の展開」に出演（主催＝国立劇場）	国立劇場大ホール
7月9日(木)	**第124回定期演奏会**――ファンタスティックコンサート（江戸音楽考察）	津田ホール
7月13日(月)	日本音楽集団演奏会	グリーンホール相模大野
9月12日(土)	日本音楽集団演奏会	青森・青龍寺
10月6日(火)	**第125回定期演奏会**	朝日生命ホール
11月24日(火)	**第126回定期演奏会**	津田ホール

【お知らせ】

★三木稔の〈鳳凰三連〉のＣＤ（二枚組）が、カメラータから６月21日に発売されます。
①序の曲　三橋貴風（尺八）、吉村七重（二十絃箏）、田中悠美子(三味線)、若杉弘指揮、東京交響楽団
②破の曲　野坂恵子（二十絃箏）、山岡重信指揮　東京フィルハーモニー交響楽団
③急の曲　日本音楽集団、クルト・マズア指揮　ゲヴァントハウス管弦楽団

★国立劇場６月邦楽公演〈第10回現代日本音楽の展開～合奏特集〉に出演、三木稔の「古代舞曲によるパラフレーズ」(ソプラノ宇佐美瑠璃）を演奏します。チケットをご希望の方、ＣＤのお問合わせ等は事務局まで。

INTERNATIONAL MUSIC SERVICE
ims
アイ・エム・エス ●楽器リース●保管●移動●ステージ・スタッフ派遣
〒167 東京都杉並区上荻２―21―25
オリオンシャトー1F
PHONE. 03-3397-2292
FAX. 03-3397-7728

日本音楽集団 PRO MUSICA NIPPONIA

名誉代表　長沢　勝俊
代　表　田村　拓男
副代表　尾崎　太一
運営委員長　米澤　浩
事務局　霜島　素子
　　奈良　義寛（参与）
監　事　芹沢　英雄

名誉団員　山田美喜子

団員連名

〈正団員〉

西川　浩平（笛）
宮田耕八朗（尺八）
坂田　誠山（尺八）
三橋　貴風（尺八）
藤崎　重康（尺八・笛）
竹井　誠（尺八・笛）運
米澤　浩（尺八）運
水川　寿也（尺八）運
水谷　雅康（尺八）
畦地　慶司（胡弓・作曲）
野口美恵子（三味線）
太田　幸子（三味線）
簑田　司郎（三味線）運
田中悠美子（三味線）
工藤　哲子（三味線）
半田　淳子（琵琶）
田原　順子（琵琶）
坂田　美子（琵琶）
坂井　敏子（箏・三味線・胡弓）
白根きぬ子（箏）
吉村　七重（箏）
花房はるぇ（箏・三味線）
宮越　圭子（箏）運
木村　玲子（箏）
内藤　洋子（箏）運
熊沢栄利子（箏）
大畠菜穂子（箏）
佐藤由香里（箏）
島崎　春美（箏）
久東　寿子（箏）
桜井　智永（箏）
山田　明美（箏）
尾崎　太一（打楽器）
西川　啓光（打楽器）
高橋　明邦（打楽器・指揮）
黒坂　昇（打楽器）
細谷　一郎（打楽器）
前田　文男（打楽器）運
望月太喜之丞（打楽器）
田村　拓男（指揮・打楽器）
稲田　康（指揮）
長沢　勝俊（作曲）
秋岸　寛久（作曲）
中島　隆（楽器係）

〈準団員〉

西原　貴子（笛）
西原　祐二（ヒチリキ・笙）
添川　浩史（尺八）
石田　忠史（尺八）
坂口　美香（三味線）
原田富士江（三味線）
山田まゆ美（琵琶）
丹野　さぇ（琵琶）
佐藤　里美（箏）
高橋はるな（箏）
安武由香理（箏）
外山　香（箏）
大泉　一美（箏）
城ヶ崎美保（箏）
臼杵美智代（打楽器）

〈研修生〉

加藤　秀和（尺八）
佐久間マチ（三味線）
橋本　芳子（三味線）
山崎千鶴子（三味線）
中山さち子（三味線）
金　堅（箏）
中垣　雅葉（箏）
孟　小亮（打楽器）
白樫　栄子（作曲）

協力団員　伊藤　物一
地方在住団員　田嶋恵美子

一九九二年四月一日現在

〔本年度委員〕
運印＝運営委員

〈賛助会員〉

滝沢　修
野坂　操寿
鶴田　錦史
霜島　邦子
古川羽衣山
丹野井成寿
増田　啓子
楠　知子
鞍掛　昭二
鯉沼　広行
佐藤　敏直
芝　祐靖
清水　義矩
杉浦　弘和
砂崎　知子
芹沢　英雄
高野　文子
田嶋　直士
田中　利光
鶴野　和子
戸井　昌造
藤舎　呂悦
藤舎　呂船
仲俣申喜男
中村　八大
野口　鎮
広瀬　量平
福田　輝久
鳳声　晴由
青木　誠
秋浜　悟史
荒谷　俊治
稲垣　隆史
小田切清光
川崎　祥悦
菊地　悌子
仲俣申喜男
ディヴィッド・ロープ
ディヴィッド・ヒューズ
ヘンリー・バーネット
ラニィ・シェルダン
王　燕樵
張　暁輝
星　旭
増田　睦美
三木　稔
宮本　幸子
元橋　康男
矢崎　明子
柳家小三治
横山　勝也

〈団友〉

〈日本音楽協会支部〉

関西支部　田嶋直士　[redacted]
TEL [redacted]
水戸支部　斉藤幸山　[redacted]
TEL [redacted]
長野支部　佐藤幸宇山　[redacted]
TEL [redacted]
山梨支部　郷晃　[redacted]
TEL [redacted]
長崎支部　牧山雅楽郁　[redacted]
TEL [redacted]
熊本支部　古川羽衣山　[redacted]
TEL [redacted]
秋田支部　野口裕子　[redacted]
TEL [redacted]
邦楽の会つばら事務局

オリジナル立奏台

箏

二十絃箏

箏を愛するすべての人の繊細な感情を忠実に
音に表現するために、楽器の本質を追求した箏

日本音楽集団推薦

琴光堂和樂器店

東京都目黒区碑文谷2-19-15 TEL(3792)8481
FAX(3792)8437